

備前市 事務事業 評価表

(平成17年度事業)

事業名	保健事業		コード	担当課	保健課 保険医療係
事業実施期間	平成17年度～		02-01-07-03	担当者	末長 章彦
総合計画 事業(政策)体系	大項目	健康でやさしさあふれる まちづくり	電話	64-1819 (内122)	
	中項目	やさしさあふれる まちづくり			
	小項目	保険給付(国保)			
	施策	保健事業の推進			

事業について	
目的	被保険者の健康保持のため健康教育の啓発をするとともに、疾病の早期発見による重症化を防止する。
対象 (誰のために)	備前市国保加入者
内容	全被保険者に対する健康に関するパンフレットの配布。さらには医療費通知を送付することにより自己の受診状況を把握してもらい健康に関心を持ってもらう。希望者に対しては、疾病の早期発見のため人間ドック・脳ドックを実施。また、高齢化社会に対応するため、その中核施設として、総合保健施設を整備する。

事業の結果			
実施項目	17年度		
	回数など (単位)	回数など (単位)	回数など (単位)
日帰り人間ドック	136 人	通	人
医療費通知	180,893 通		
総合保健施設整備	1,202.8 m	世帯	世帯
保健衛生種目普及・啓発事業		世帯	世帯
貸付事業	76 件	件	件

事業費 (単位：千円)	事業費		財源		事業費		財源	
	直接事業費	335,762	国保補助金	187,035	直接事業費		国保補助金	
	人件費	7,820	受益者負担	11,797	人件費		受益者負担	
			市債	116,300			市債	
合計	343,582	一般財源等	28,450	合計	0	一般財源等	0	

結果指標①	結果指標名	医療費通知		
	結果指標量	180,893		
	単位	通		
	対前年比	—	0.00%	#DIV/0!
結果指標②	結果指標名	日帰り人間ドック		
	結果指標量	136		
	単位	人		
	対前年比	—	0.00%	#DIV/0!

事業費	事業費	4,146,000 円		
	単位当たりコスト①	23 円	#DIV/0!	#DIV/0!
事業費	事業費	6,789,000 円		
	単位当たりコスト②	49,919 円	#DIV/0!	#DIV/0!

事業の成果			
成果指標名	人間ドック受診率	式又は説明	受診者数/40~70歳被保険者数
	17年度		
成果指標量	2.07%	#DIV/0!	#DIV/0!
対前年比	—	#DIV/0!	#DIV/0!
到達目標値	3.00%	到達目標年度	20年度

事務事業の評価		
目的・対象・内容の妥当性評価	目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 関係法令等で目的が定められており妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化しつつある <input type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的は妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 関係法令等：国民健康保険法
	対象の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 受益者の拡大を検討する余地がある <input type="checkbox"/> 受益者の縮小を検討する余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 現在の対象者は妥当である
	市民ニーズの妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民、団体などから要望・要請のある事業である <input checked="" type="checkbox"/> 市民に概ね好評な事業である <input type="checkbox"/> 公共秩序の維持、行政の適正運営に必要な事業である
効率性の評価	市の関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 国・県又は関係法令で定められている事業である <input type="checkbox"/> 民間に類似サービスがある <input checked="" type="checkbox"/> 本市が関与すべき事業である <input type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の影響は大である
	コストの効率化	<input type="checkbox"/> 単位当たりコストは増加傾向にある <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力をしている <input type="checkbox"/> できる限り民間活力を利用している <input type="checkbox"/> 受益者負担額は適正である
	手段の最適化	<input checked="" type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で確認・見直しを行っている <input type="checkbox"/> 他に有効な代替手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 事業は他部署と密接な連絡調整を行っている
有効性の評価	職場の効率化	<input type="checkbox"/> 事業に関して事務改善等作業効率の向上に努めている <input type="checkbox"/> 事業に関するOJT(職場研修)は行われている <input type="checkbox"/> 事業の進行管理を定期的に行っている <input checked="" type="checkbox"/> 事業実施について職員の意見・要望が反映されやすい
	目的達成度	<input checked="" type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input type="checkbox"/> 成果指標は前年度より向上している
	成果向上の可能性	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上しており今後も向上する見込みである <input checked="" type="checkbox"/> 今後、成果指標は向上する余地がある
市民参画度	<input checked="" type="checkbox"/> 事業について積極的に情報提供している <input checked="" type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映している <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> 事業のプラン作りから市民参加を得る手段をとっている	

課題認識
健康づくりへの関心を高めるためには有効な手段であると思う。また他の係との連携をとり予防事業について、総合保健施設を拠点として保健活動を広める必要がある。

日帰り人間ドックについてはコスト削減につながっている。(保健事業費のうち316,332千円は総合保健施設整備にあてた。)

総合評価	健康パンフレット・健康カレンダー、医療費通知等の各種普及・啓発事業は、一方通行の情報提供になりやすい。このため、個人個人の健康について、自らがもっと関心をもってもらうための施策を講じる必要がある。	評価区分 <A~E> C
------	--	--------------------

今後の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する) <input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/> 現状のまま継続する <input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する <input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する <input type="checkbox"/> 完了・統合		
翌年度 結果指標量①	180,000通	結果指標量②	150人
目標値 成果指標量	2,50%		

改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
有効性	健康指向の高まりから受診者数が増えきているため人間ドックの受診者数枠の拡大を図る	随時	早期発見・早期治療により医療費の抑制に繋がる。
有効性	係内での連携をとりながら普及、啓発などの健康づくり事業を推進する	随時	健康づくりに対する意識改革や多重受診の防止など医療費の適正化が図れる。

事業の目的、対象、内容を考えながら目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。